

ビジュアルデザイン学科演習科目
「ビジュアル・コミュニケーション」の教育記録の研究

RESEARCH ON EDUCATIONAL RECORDS OF "VISUAL COMMUNICATION", AN
EXERCISE COURSE OF THE DEPARTMENT OF VISUAL DESIGN

.....
榮元 正博 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 教授
黄 國賓 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 教授
寺門 孝之 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 教授
赤崎 正一 名誉教授

Masahiro EIGEN Department of Visual Design, School of Arts and Design, Professor
Kuo-pin HUANG Department of Visual Design, School of Arts and Design, Professor
Takayuki TERAKADO Department of Visual Design, School of Arts and Design, Professor
Shoichi AKAZAKI Professor Emeritus
.....

要旨

ビジュアルデザイン学科演習科目「ビジュアル・コミュニケーション」は、故戸田ツトム教授を代表として2013年に設置された。現代デザインの巨匠である戸田教授による一貫した教育実践は、ビジュアルデザイン学科の教育の核を構成するものであった。本科目ではデザインにおける「思考」のあり方、さらにデザイナーが現代社会においていかに批判的視野を持って実務に携わるべきかという戸田教授の「デザイン哲学」が教育実践の中心であった。2015年以降の本科目における戸田教授の講義音声はほぼ完全に記録として残されている。この音声記録をテキスト化して戸田ツトムの思考のアーカイブとして残し、戸田デザイン研究の基礎的資料としてまとめ、書籍化することを本研究は目的とする。

Summary

"Visual Communication", an exercise course of the Department of Visual Design, was established in 2013 under the leadership of the late Professor Tsutomu Toda. The consistent educational practice by Professor Toda, a master of contemporary design, constitutes the core of the Department of Visual Design's education. The audio of Professor Toda's lectures in this course from 2015 onward are almost completely recorded. The audio recordings have been almost completely preserved since 2015. The purpose of this study is to convert these audio recordings into text to preserve them as an archive of Tsutomu Toda's thinking, and to compile them into a book as a fundamental resource for Toda's design research.

本研究は、数年にわたる療養生活の末に 2020 年 7 月に逝去された故戸田ツトム教授の「ビジュアルデザイン学科」における教育実践を具体的に記録することを目的として、研究メンバーの教員によって計画された。

2006年度に「ビジュアルデザイン学科」は全学的改組の一環として、旧「視覚情報デザイン学科」から、単なる名称変更以上の大幅な組織更新をして発足した。戸田ツトムも 2006 年 4 月に正式に教授として着任した。

「ビジュアルデザイン学科」における教育過程の大きな特徴は、「エディトリアルデザイン」を軸の一つに据えたことにある。

1970年代後半から始まる戸田教授のデザイン界における活躍は誰もが知るものであるが、その活躍の場は主に出版のデザイン＝エディトリアルデザインの領域によるものである。

戸田ツトムはこれまで多くのデザイン誌にも特集され、単著も少なくない。そのようにデザイン界の内部だけでなく一般社会にもよく知られた「戸田デザイン」ではあるが、しかし、デザイン教育者としての戸田ツトムの活動と実践についてはこれまでほぼ知られることは無かった。

本研究は、戸田ツトムのデザイン教育のきわめてユニークな特徴を紹介するとともに、その成果として現在活躍中の学科 OB たちからの聞き取りも交えて、その教育実践の価値を記録として留めることにある。

教育者としてのユニークな在り方は現役のデザイン教員にとっても示唆的であり、デザイン教育における「指導」そのものを問い直すものともなるはずである。

*

ビジュアルデザイン学科演習科目「ビジュアル・コミュニケーション」は、故戸田ツトム教授を代表として 2013 年に設置された。本科目では、デザインにおける「思考」のあり方、さらに、デザイナーが現代社会においていかに批判的視野を持って実務に携わるべきかという戸田教授の「デザイン哲学」が教育実践の中心であった。

「ビジュアル・コミュニケーション」における教育はきわめてユニークなものであり、授業の場で語られた「ことば」は単にデザインの世界のみならず、デザインが表象化する現代社会全般についての批判的言及としても、示唆に富むもの

であった。

2015 年度以降（～2017 年度）の本科目における戸田教授の講義音声はほぼ完全に記録として残されている。この音声記録をテキスト化して戸田ツトムの思考のアーカイブとして残し、戸田デザイン研究の基礎的資料としてまとめることを本研究は当初の目的とした。



写真1 ビジュアルデザイン学科 2017年度企画展示「TZTOM TODA—Editorial Design—」の様子

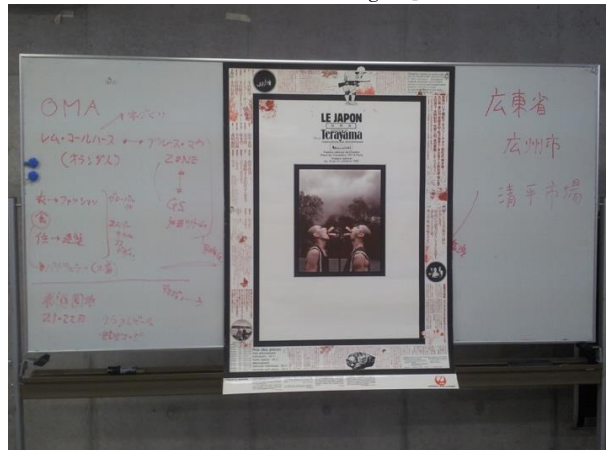


写真2 授業のホワイトボード

*

戸田教授には 1999 年に刊行された大部の作品集「D-ZONE」があり、また最近ではビジュアルデザイン学科で刊行した「Visual Design 1.」に 21 世紀になってからの作品群が特集されている。雑誌「ユリイカ」の 2021 年 1 月臨時増刊号に「総特集◎戸田ツトム」として追悼特集されたことによって、作品・手法について様々な論評・分析がなされているが、本格的研究はまだこれから後続の世代によって成されることになるはずである。

2006 年度からの 10 年以上にわたる教育実績は、そうした研究の基礎的資料としても重要なものであり、ビジュアルデ

デザイン学科としては記録をまとめる重大な意義がある。現代ビジュアルデザイン研究の重要なコアの部分となす戸田デザインの研究に対して、この授業音声記録に残された戸田教授自身の肉声による「ことば」が伝えるデザイン意識・デザイン思考がアーカイブとして残されることは、後進研究者のためにも、きわめて意義深いもののはずである。



写真3 ビジュアル・コミュニケーション公開講座の様子

*

2022年度の本研究では、戸田ツトム教授の在任最終年度であった2017年度の「ビジュアル・コミュニケーション」の音声記録のテキスト化作業を集中的に実施した。

以下は、2017年度の「ビジュアル・コミュニケーション」の授業目的・方針である。

『すべてのビジュアルデザインは、時間軸を内在した加速度的な運動状態にあるものです。われわれが視ている様々なグラフィックス（画像）とは、それらを瞬間的に断面投影したものです。つまり、われわれ（人間＝デザイナー）は「視る」ことによって常にグラフィックスを生成し続ける存在なのです。自覚的であるか否かにかかわらず、そのように生きる存在です。この授業では制作の形態を問わず、そのように「視る」ことの意識化を通じて、それに直結する手、身体、様々なツールによる制作を演習します。

3回分の授業を1セットとして5セットの制作をします。各セットにおいて教員による「モチーフ」を設定し、その「モチーフ」をめぐる語り合い、制作し、さらに制作したものを対象に再度「視る」ことを検証します。』

また、以下は2017年度の「ビジュアル・コミュニケーション」の授業内容（設定モチーフ）である。

【前期モチーフ】

第1セット、モチーフ：断層

第2セット、モチーフ：速度と加速度

第3セット、モチーフ：表層

第4セット、モチーフ：音

第5セット、モチーフ：時間

【後期モチーフ】

第1セット、モチーフ：視る（見る、観る）

第2セット、モチーフ：食べる

第3セット、モチーフ：聴く（聞く）

第4セット、モチーフ：歩く

第5セット、モチーフ：眠る

*

科目「ビジュアル・コミュニケーション」の音声記録は、各セットともそれぞれおおよそ100～150分が残されている。この全てを単年度の研究計画においてテキスト化することは不可能であるため、各分担者が集中聴取して各記録の「仕分け」を実施した。

優先的にテキスト化すべきと判断された音声記録については、OB協力者として、本科目受講経験のあるビジュアルデザイン学科OBで、すでに社会でデザイン実務の経験のある数名を組織してテキスト化チームを編成した。

戸田教授と対話者である分担教員の声の質、話し方の特徴を熟知した数名のOB協力者によりテキスト化された音声記録ではあるが、しかしやはりそれだけでは話し言葉独特の表現上の揺らぎがあり、今後の整理・構成の作業が重要なものとなる。

*

本研究は、最終的には書籍としての出版を目指すものである。

今後は、この音声記録のテキスト化による科目「ビジュアル・コミュニケーション」の記録のみならず、履修経験者の中ですでに出版デザインの世界で若手として活躍している卒業生の数人へのインタビュー記録なども実施して、以下のような目次構成による戸田ツトムの教育実践を記録した書籍の制作を目指す。

出版計画の目次構成計画

【目次構成（案）】

- 1) まえがき
- 2) 対談「戸田ツトムとビジュアルデザイン学科の教育
（仮）」（寺門+赤崎）
- 3) 戸田ゼミ・戸田事務所出身者インタビュー
佐野裕哉（06V）
今垣知沙子（07V）
坂田玲央（07V）
- 4) 「ビジュアル・コミュニケーション」記録（2022 年度テ
キスト化済み）
- 5) 戸田映像論：榮元
- 6) 戸田デザイン論+「ビジュアル・コミュニケーション」
論：赤崎
- 7) ビジュアルデザイン学科+戸田ツトム略年表
- 8) あとがき

*

2022年度研究では上記出版計画に至る準備が確立されたと
結論づけられる。